

高次脳機能障害支援者養成研修 【基礎編】

開催機関向け基礎編研修指導要領

2023年3月
令和4年度 厚生労働科学研究
「高次脳機能障害の障害特性に応じた支援者養成研修カリキュラム及びテキストの開発のための研究」

高次脳機能障害支援者養成研修 【基礎編】

開催機関向け基礎編研修指導要領

2023年3月

令和4年度 厚生労働科学研究

「高次脳機能障害の障害特性に応じた支援者養成研修カリキュラム及びテキストの開発のための研究」

はじめに	1
【講義 00】 高次脳機能障害者基礎研修とは.....	2
【講義 01】 高次脳機能障害とは.....	4
【講義 02】 高次脳機能障害の診断・評価.....	5
【講義 03】 病院で行うリハビリテーション.....	6
医学的リハビリテーション	
【講義 04】 失語症とコミュニケーション支援.....	7
【講義 05】 制度利用.....	11
障害者手帳と総合支援法サービスを中心に	
【講義 06】 相談支援.....	12
情報収集とアセスメント	
【講義 07】 復職支援・就労支援.....	13
【講義 08】 生活訓練.....	21
自立訓練（生活訓練）における支援の取組	
【講義 09】 生活と支援の実際.....	24
就労継続支援 B 型事業所の例から	
【演習 01】 障害特性の理解.....	25
診断・評価体験	
【演習 02】 障害特性に応じた支援.....	26
相談支援 事例を通じたアセスメント A	
【演習 03】 生活訓練の実際.....	27
【演習 04】 復職・就労移行支援.....	29
グループワーク：事例検討	

はじめに

この研修会テキストは2020~22年度の厚生労働科学研究「高次脳機能障害の障害特性に応じた支援者養成研修カリキュラム及びテキスト開発のための研究」の研究班によって作成されました。当研究の目的は、高次脳機能障害の支援者に必要な知識を普及するため、全国で開催可能な、研修会の標準化を行うことです。

研修は、高次脳機能障害の支援の初心者である方を対象とした「基礎編」、経験者を対象とした「実践編」の2部構成で、それぞれにカリキュラム、シラバスを定め、テキスト作成はそれぞれ専門家が担当しました。

このテキストが活用され、支援者の育成がなされ、高次脳機能障害のある方が住み慣れた場所で地域の人々と共生する社会へと進むことを願っています。

2023年3月

研究代表者 深津玲子

国立障害者リハビリテーションセンター顧問

研究班（所属等は2023年3月31日現在）※順不同、敬称略、★テキスト基礎編執筆担当

研究分担者

- ★ 立石雅子 日本言語聴覚士協会 副会長
- ★ 青木美和子 札幌国際大学 教授
- 上田敬太 京都光華女子大学 教授
- ★ 渡邊修 東京慈恵会医科大学 教授
- ★ 鈴木匡子 東北大学 教授
- ★ 廣瀬綾奈 帝京平成大学 講師
- ★ 浦上裕子 国立障害者リハビリテーションセンター病院 第三診療部長
- ★ 今橋久美子 国立障害者リハビリテーションセンター研究所 室長

研究協力者

- 片岡保憲 脳損傷友の会高知青い空 理事長
- 古謝由美 日本高次脳機能障害友の会 監事
- 守矢亜由美 東京都心身障害者福祉センター 地域支援課 高次脳機能障害者支援担当
- 西尾彰子 東京都心身障害者福祉センター 地域支援課 高次脳機能障害者支援担当
- 鈴木智敦 名古屋市総合リハビリテーションセンター 副センター長
- ★ 瀧澤学 神奈川県総合リハビリテーションセンター 総括主査
- 佐宗めぐみ 相談支援「楽翔」管理者
- ★ 小西川梨紗 滋賀県高次脳機能障害支援センター 臨床心理士
- コワリック優華 滋賀県高次脳機能障害支援センター 看護師
- ★ 稲葉 健太郎 名古屋市総合リハビリテーションセンター 自立支援部長
- 熊倉 良雄 国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局
- 安部 恵理子 国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局 作業療法士
- 石森 伸吾 国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局 主任
- ★ 山舘 圭子 栃内第二病院 臨床心理士
- 小島 一郎 名古屋市総合リハビリテーションセンター 総合相談部長

【講義 00】 高次脳機能障害者基礎研修とは

科目	テキスト	時間
基礎編研修の趣旨説明	PowerPoint スライド/mp4 動画	40 分
研修のねらい		
基礎編研修の趣旨について理解する		
研修内容		
基礎編研修の対象者および構成		
番号	スライド	注意事項
1	<p>高次脳機能障害支援者 基礎研修とは</p>	講義に先立ち基礎研修について説明し、何を学ぶかについてナビゲートします。研修会の冒頭で主催者が実施してください。
2	<p>当研修（高次脳機能障害支援者基礎研修）の対象目標</p> <p>研修対象 → すべての障害福祉サービスの新人・若手職員</p> <p>目標 →</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 障害福祉サービスの対象となる高次脳機能障害について知る ● 高次脳機能障害者の障害特性を理解し、日常的な支援での対応方法を習得する 	基礎研修の対象および目標について説明します。障害福祉関係者以外を対象とする研修会に使用する場合は、主催者が修正してください。
3	<p>基礎研修講義のナビゲーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 障害の定義 <ul style="list-style-type: none"> 講義1：高次脳機能障害とは ● 障害特性の理解 <ul style="list-style-type: none"> 講義2：高次脳機能障害の診断・評価 講義3：病院で行うリハビリテーション 医学的リハビリテーション ● 障害特性に応じた支援 <ul style="list-style-type: none"> 講義4：失語症とコミュニケーション支援 講義5：障害福祉制度の利用 講義6：相談支援 講義7：生活訓練（障害福祉施設で行うリハビリテーション） 講義8：復職・就労移行支援（障害福祉および障害者雇用における取組） 講義9：生活と支援の実践（就労継続B型事業の利用） 	基礎研修のカリキュラムです。講義 1～9 および演習を修了すること。ただし何回かに分割して行なう等の場合は、主催者が修正して使用してください。また講師は基本的には主催者が依頼し、テキストに沿って行ってください。

		<p>講師が見つからなかった場合テキストの音声を使用しますが、質疑応答については主催者が対応してください。</p>
<p>4</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center; background-color: #f080f0; margin: 0;">基礎研修演習のナビゲーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 障害特性の理解 演習1：診断評価体験 ● 障害特性に応じた支援 演習2：退院時支援の実際、情報収集とアセスメント 演習3：生活訓練の実際 演習4：復職・就労移行支援 </div>	<p>基礎研修演習のカリキュラムです。研修対象が障害福祉関係者の場合は、演習も実施してください。</p>

【講義 01】 高次脳機能障害とは

科目	テキスト	時間
障害の定義	PowerPoint スライド/mp4 動画	40 分
研修のねらい		
高次脳機能障害の定義を知る		
研修内容		
高次脳機能障害の定義 Q&A 各論の紹介		
番号	スライド	注意事項
		なし

【講義 02】 高次脳機能障害の診断・評価

科目	テキスト	時間
障害特性の理解 診断・評価	PowerPoint スライド/mp4 動画	40 分
研修のねらい		
高次脳機能障害が生じる背景と診断・評価の基本を理解する		
研修内容		
診断の流れ 症状の成り立ち 症状の診かた 神経心理学的評価		
番号	スライド	注意事項
		なし

【講義 03】 病院で行うリハビリテーション

医学的リハビリテーション

科目	テキスト	時間
障害特性の理解；医学的リハビリテーション（病院におけるリハビリテーション）、医療福祉連携	PowerPoint スライド/mp4 動画	40 分
研修のねらい		
急性期から回復期に至る病院でのリハビリテーションの内容を理解する。さらに、医療機関と地域の福祉機関との連携方法を理解する。		
研修内容		
医学的リハビリテーション ① 急性期および回復期の理解 ② 医学的管理 ③ 廃用症候群の予防 ④ 高次脳機能障害への対応 医療福祉連携 ① 障害者総合支援法の利用 ② 介護保険法の利用 ③ 就労支援機関		
番号	スライド	注意事項
		なし

【講義 04】失語症とコミュニケーション支援

科目	テキスト	時間
失語症とコミュニケーション支援	PowerPoint スライド/mp4 動画	40 分
研修のねらい		
失語症についての基本的なイメージを持ち、具体的な対応の要点を理解する。		
研修内容		
失語症とは何か。 適切な対応方法		
番号	スライド	注意事項
10	<p style="text-align: center;">失語症の症状 聞く側面</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 聴力の問題ではない。 ✓ 聞いて理解することが難しい。 ✓ 複雑な内容や長い文、また話し方が早いと理解は特に難しい。 ✓ 復唱はできても意味を理解していない場合がある。 	講義をされる方は ✓ のついている項目ごとにスライドをクリックしてください。
11	<p style="text-align: center;">失語症の症状 話す側面</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ わかっているも言いたいことばが出てこないことがある（喚語障害）。 ✓ 言い間違えて別のことばを言う（みかん⇒リンゴ、みたん） ✓ 意味が分からない発話になる などの場合がある。 ✓ 流暢・非流暢 滑らかな話し方、たどたどしい話し方 	講義をされる方は ✓ のついている項目ごとにスライドをクリックしてください。

<p>12</p>	<p style="text-align: center;">失語症の症状 読む側面</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 文字は見えていても意味が理解できない。 ✓ 一般には漢字が仮名より理解しやすい場合が多い。 ✓ 声に出して読むことが難しくなる。 ✓ 音読ができて、意味は理解できていない場合がある。 	<p>講義をされる方は ✓ のついている項目ごとに スライドをクリックしてください。</p>
<p>13</p>	<p style="text-align: center;">失語症の症状 書く側面</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 書こうとする文字が思い出せない。 ✓ 文字を書き誤ることがある。 ✓ 一般には仮名が漢字より難しい。 ✓ 文法の問題もあり、文章を書くことは特に難しい。 	<p>講義をされる方は ✓ のついている項目ごとに スライドをクリックしてください。</p>
<p>15</p>	<p style="text-align: center;">失語症のタイプ</p> <p>代表的なもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ プロローカ失語 聞いて理解する能力に比べ話す能力の障害が重い。 運動麻痺を伴うことが多い。 ✓ ウエルニック失語 話す能力に比べ聞いて理解する能力の障害が重い。 	<p>講義をされる方は ✓ のついている項目でスラ イドをクリックしてください。</p>
<p>18</p>	<p style="text-align: center;">失語症の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 言語機能の障害がある。 ✓ 大脳の損傷部位によって症状が異なる。 ✓ 症状の重症度も人によって異なる。 ✓ 運動麻痺を伴うことも多い。 ✓ 困っていることを自分で人に伝えられない。 	<p>講義をされる方は ✓ のついている項目ごとに スライドをクリックしてください。</p>
<p>19</p>	<p style="text-align: center;">失語症に伴って生じる問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 障害が理解されにくい ✓ 社会から孤立しがち ✓ 自分に自信が持てない ✓ 家族もストレスが多い ✓ 社会保障が不十分 	<p>講義をされる方は ✓ のついている項目ごとに スライドをクリックしてください。</p>

<p>20</p>	<p>病前と同じに保たれる能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 知的機能 ✓ 状況の判断 ✓ 社会的礼節、場面に応じた対応 ✓ 時間、場所、できごとの記憶 <p>▶ 失語症のある人とのやり取りに活用できる</p>	<p>講義をされる方は ✓ のついている項目ごとに スライドをクリックしてください。</p>
<p>21</p>	<p>合併しやすい症状</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 気分の変化が激しくなることがある。 ✓ 疲れやすい、集中力が低下する、などのことが見られる。 ✓ 同時に複数のことの処理が難しいことがある。 	<p>講義をされる方は ✓ のついている項目ごとに スライドをクリックしてください。</p>
<p>22</p>	<p>会話の基本</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 本人の意向を確認する。 ✓ 本人の人格を尊重し、対等の立場で話をする。 ✓ 落ち着いた雰囲気です話をする。 ✓ 本人を不安な気持ちにさせない。 	<p>講義をされる方は ✓ のついている項目ごとに スライドをクリックしてください。</p>
<p>23</p>	<p>全般的な留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 本人のわずかな変化に敏感に対応する。 ✓ 適切な距離をとり、表情を見ながらゆっくり話しかける。 ✓ 相手の表情や動作をよく見る。会話に役立つたくさんの情報が含まれている。 ✓ 本人のはっきりしない反応をうやむやにしない。はっきりしない反応の中に本当に伝えたい内容があることも多いので、確認をする。 	<p>講義をされる方は ✓ のついている項目ごとに スライドをクリックしてください。</p>
<p>24</p>	<p>事例：翌日の医師の診察について 施設職員が説明した場面</p> <p>明日、8月10日（火）は午後1時から医師の診察があります。受診の前に検尿と血液検査をしますので2階の処置室に12時半までにいらしてください。尿を提出して採血が終わったら今度は1階の診察室に行ってください。やっていただくことがたくさんありますので、朝食は11時半からになります。</p>	<p>講義をする方は かなり早口で読み上げてくださ い。ここで受講生に理解してもらうように読む 必要はありません。</p>

<p>25</p>	<p style="text-align: center;">理解面を補う</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ゆっくり、はっきり話す × 早口や不明瞭な話し方 ○ 短く、わかりやすい言葉で話す × 長々話すことや難しい熟語 <p>悪い例： 「あ・し・た・し・ん・さ・つ・が・・・」 「あ～し～た～し～ん～さ～つ～が～・・・」</p> <p>良い例： 「明日、診察が、あります。1時からです。・・・」</p>	<p>講義をする方は 1音ずつ区切って読み上げてください。</p> <p>講義をする方は 1音を引き延ばして読み上げてください。</p> <p>講義する方は 文節ごとに間を取って読み上げてください。</p>
<p>35</p>	<p style="text-align: center;">資料 失語症について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 相手の話や声は聞こえていても、話の内容が理解できないことがある。 2. 聞いてもらいながら実物や文字など視覚的情報も併用すると理解が深まる。 3. 話すことが難しい場合に「あいうえお」の50音表ではなく、実物や絵、漢字などを指さしてもらう方が有効である。 4. 話すことが難しい場合には「何が食べたいか」という質問より「はい」「いいえ」で答えられる質問の方が答えやすい。 5. 失語症のある人の言っていることがこちらにわからない場合に、わかったように相槌をうつのは避け、わからないことを伝え、わかる努力を続ける。 6. 失語症になってもその人らしい人格は変わらない。 7. 失語症のある人は記憶や周囲の状況の理解は保たれている。 8. 失語症があっても地図やカレンダーは理解できる。 	<p>講義をする方は以下のように伝えてください。質問があれば回答してください。</p>

【講義 05】 制度利用

障害者手帳と総合支援法サービスを中心に

科目	テキスト	時間
制度利用	PowerPoint スライド/mp4 動画	40 分

研修のねらい

高次脳機能障害支援に関連する法制度を理解する。

研修内容

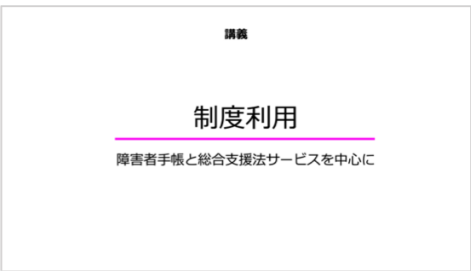
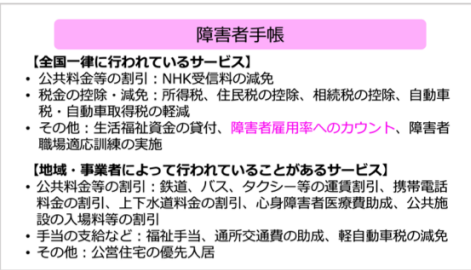
高次脳機能障害支援に関連する法制度

障害者総合支援法に基づくサービス

障害者手帳制度

手続き

活用方法と事例

番号	スライド	注意事項
1		この講義の目標は、高次脳機能障害支援に関連する法制度を理解することです。講師は、高次脳機能障害支援に関連する法制度、障害者総合支援法に基づくサービス、障害者手帳制度、手続き、活用方法と事例について説明してください。
17		地域・事業者によって行われていることがあるサービスについては、適宜、各自治体で提供しているサービスに差し替えてください。

【講義 06】 相談支援

情報収集とアセスメント

科目	テキスト	時間
地域におけるリハビリテーション；相談支援（情報収集とアセスメント）	PowerPoint スライド/mp4 動画	40 分
研修のねらい		
高次脳機能障害支援における情報収集・アセスメントの要点を理解する。		
研修内容		
診断名と症状や受傷発症状況 既往歴と医療機関 家族と関係者 生活状況と生活史 制度利用		
番号	スライド	注意事項
		なし






【講義 07】 復職支援・就労支援

科目	テキスト	時間
地域におけるリハビリテーション；生活訓練	PowerPoint スライド/mp4 動画	40 分
研修のねらい		
高次脳機能障害の生活訓練について理解する。		
研修内容		
<ul style="list-style-type: none"> 生活訓練の概要 高次脳機能障害者の生活上の困難さ 生活訓練におけるアセスメントと目標立案 訓練プログラムの内容 生活訓練における支援のポイント 		
番号	スライド	注意事項
1	<p style="text-align: center;">講義</p> <p style="text-align: center;">生活訓練</p> <p style="text-align: center;">自立訓練（生活訓練）における支援の取組</p>	特定の生活訓練サービスの取組について紹介する場合は、支援機関の名称を変更してください。
3	<p style="text-align: center;">国立障害者リハビリテーションセンターの生活訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 対象者：①高次脳機能障害の診断を受けた方 ②自立した生活を送るために訓練を必要とする方 ③障害福祉サービス受給者証の交付を受けた方 ■ 期間：24ヶ月以内（原則） ■ 定員：30名 ■ 利用形態：通所・入所・訪問 ■ 支援体制 <p style="text-align: center;">生活訓練（日中活動） 施設入所支援（夜間休日）</p>	特定の生活訓練サービスの取組について紹介する場合は、内容を修正してください。

<p>4</p>	<p>サービス提供の流れ</p>	<p>特定の生活訓練サービスの取組について紹介する場合は、内容を修正してください。</p>
<p>5</p>	<p>利用者の状況</p> <p>2006(平成18)年10月から2022(令和4)年3月までに利用開始した311名</p>	<p>特定の生活訓練サービスの取組について紹介する場合は、内容を修正してください。</p>
<p>6</p>		<p>特定の生活訓練サービスの取組について紹介する場合は、内容を修正してください。</p>
<p>7</p>		<p>特定の生活訓練サービスの取組について紹介する場合は、内容を修正してください。</p>
<p>8</p>	<p>生活訓練利用者の生活上の困難さ①</p> <p>本人・家族の日常生活上の困難さに関する記載件数</p>	<p>特定の生活訓練サービスの取組について紹介する場合は、必要に応じて内容を修正してください。</p>

<p>9</p>	<p>生活訓練利用者の生活上の困難さ②</p> <p>(件)</p> <p>複数課題の進行</p> <p>日課の進行</p> <p>ストレスと心理学的要求への対処</p> <p>その他の一般的な課題と要求</p> <p>一般的な課題と要求</p> <p>家族 (n=81) ※重複あり</p> <p>本人</p> <ul style="list-style-type: none"> 予定や日課に沿って自発的に行動できない 思いやりや話しを覚える 生活リズムの乱れ 感情や気分の変動 怒りっぽさ 	<p>特定の生活訓練サービスの取組について紹介する場合は、必要に応じて内容を修正してください。</p>
<p>10</p>	<p>生活訓練利用者の生活上の困難さ③</p> <p>(件)</p> <p>基礎的学習</p> <p>知識の応用</p> <p>学習と知識の応用</p> <p>家族 (n=81) ※重複あり</p> <p>本人</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいことを覚えられない メモなどが使えない 注意、集中できない 理解や判断が困難 ごたわり 	<p>特定の生活訓練サービスの取組について紹介する場合は、必要に応じて内容を修正してください。</p>
<p>11</p>	<p>生活訓練利用者の生活上の困難さ④</p> <p>(件)</p> <p>理解</p> <p>表出</p> <p>会話</p> <p>用具と技法の利用</p> <p>その他</p> <p>コミュニケーション</p> <p>家族 (n=81) ※重複あり</p> <p>本人</p> <ul style="list-style-type: none"> 受診内容や地図、文章が理解できない 何度も同じことを聞く 勘違いや思い込み 出来事や体調を説明できない 文字や文章が書けない 話題の転換 会話についていけない 	<p>特定の生活訓練サービスの取組について紹介する場合は、必要に応じて内容を修正してください。</p>
<p>12</p>	<p>生活訓練利用者の生活上の困難さ⑤</p> <p>(件)</p> <p>身体を洗うこと</p> <p>身体各部の手入れ</p> <p>排泄</p> <p>更衣</p> <p>食事</p> <p>健康管理</p> <p>その他</p> <p>セルフケア</p> <p>家族 (n=81) ※重複あり</p> <p>本人</p> <ul style="list-style-type: none"> 身だしなみが整えられない 季節に応じて衣類を選択できない 我慢ができず食べすぎる 服薬管理ができない 休憩が取れない 	<p>特定の生活訓練サービスの取組について紹介する場合は、必要に応じて内容を修正してください。</p>
<p>13</p>	<p>生活訓練利用者の生活上の困難さ⑥</p> <p>(件)</p> <p>物品とサービスの入手</p> <p>調理</p> <p>調理以外の家事</p> <p>家庭用品の管理</p> <p>患者への援助</p> <p>その他の家庭生活</p> <p>家庭生活</p> <p>家族 (n=81) ※重複あり</p> <p>本人</p> <ul style="list-style-type: none"> 掃除や整理整頓ができない 物をなくす、見つけられない 	<p>特定の生活訓練サービスの取組について紹介する場合は、必要に応じて内容を修正してください。</p>

<p>26</p>	<p>調理訓練</p> <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業遂行能力の向上 代価手段の活用・補充行動の習得 作業動機性の向上 役割意識の増進 コミュニケーション能力の向上 達成感 調理関連動作の習得 <p>① 計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 目録や探路の共有 レシピ検索 食材の計量 手順書の作成 必要な道具や材料の選択 <p>② 買い物・準備</p> <ul style="list-style-type: none"> 買い物リストの作成 金額の学習 店内移動や荷物選択、移動依頼 支払い タイムスケジュールの事前確認 <p>③ 調理</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全な調理動作 手順に沿った実施 調理器具の洗浄 <p>④ 盛り盛り</p> <ul style="list-style-type: none"> 調理の進捗確認・列装 	<p>特定の生活訓練サービスの取組について紹介する場合は、必要に応じて内容を修正してください。</p>						
<p>27</p>	<p>就労準備訓練</p> <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な職業準備性や職場マナーの向上 作業遂行能力の向上 代価手段や補充行動の習得 障害の自己理解 <table border="1" data-bbox="414 694 718 840"> <thead> <tr> <th>事務系</th> <th>PC</th> <th>作業系</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> 簡易事務 【注文書】カタログ検索 【書籍】ファイリング 【伝票】伝票チェック・並び替え 【スタンプ】印鑑押し・ナンバーリング 【シール】シール貼り・ラベル作成 【基礎学習】計算・漢字 ・メモ練習 </td> <td> 表計算 グラフ作成 文書作成 データ入力 メール作成 タイピング ・手帳整理練習 </td> <td> 【商品】配列 【商品】換品・箱詰め ピッキング 梱包立て 【郵便物】チラシセット シール貼り 梱入・仕分け 【商品】集計・仕分け ・ビジネスマナー </td> </tr> </tbody> </table> <p>基礎訓練</p> 	事務系	PC	作業系	簡易事務 【注文書】カタログ検索 【書籍】ファイリング 【伝票】伝票チェック・並び替え 【スタンプ】印鑑押し・ナンバーリング 【シール】シール貼り・ラベル作成 【基礎学習】計算・漢字 ・メモ練習	表計算 グラフ作成 文書作成 データ入力 メール作成 タイピング ・手帳整理練習	【商品】配列 【商品】換品・箱詰め ピッキング 梱包立て 【郵便物】チラシセット シール貼り 梱入・仕分け 【商品】集計・仕分け ・ビジネスマナー	<p>特定の生活訓練サービスの取組について紹介する場合は、必要に応じて内容を修正してください。</p>
事務系	PC	作業系						
簡易事務 【注文書】カタログ検索 【書籍】ファイリング 【伝票】伝票チェック・並び替え 【スタンプ】印鑑押し・ナンバーリング 【シール】シール貼り・ラベル作成 【基礎学習】計算・漢字 ・メモ練習	表計算 グラフ作成 文書作成 データ入力 メール作成 タイピング ・手帳整理練習	【商品】配列 【商品】換品・箱詰め ピッキング 梱包立て 【郵便物】チラシセット シール貼り 梱入・仕分け 【商品】集計・仕分け ・ビジネスマナー						
<p>28</p>	<p>伝票チェック データ入力</p> <p>検品・箱詰め 封入</p> <p>協働作業 施設実習・職場実習</p> 	<p>特定の生活訓練サービスの取組について紹介する場合は、必要に応じて内容を修正してください。</p>						
<p>29</p>	<p>日常生活訓練</p> <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ADL・IADLの実行能力の向上 高齢化による日常生活の自己管理 <p>① 健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 服薬管理 体調管理 <p>② 身の回りの管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活リズム 身だしなみ 入浴 整理整頓 <p>③ 金銭管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 小遣い帳の記入 金融機関の利用 <p>④ 家事</p> <ul style="list-style-type: none"> 掃除 洗濯 調理 買い物 布団干し ゴミ出し <p>⑤ 移動</p> <ul style="list-style-type: none"> 屋内移動 公共交通機関 連絡方法 認知依頼 ルート検索 <p>⑥ 生活体験プログラム</p> <p>⑦ 訪問訓練</p> 	<p>特定の生活訓練サービスの取組について紹介する場合は、必要に応じて内容を修正してください。</p>						
<p>30</p>	<p>服薬管理 金銭管理 移動</p> <p>家事・生活体験 訪問訓練</p> 	<p>特定の生活訓練サービスの取組について紹介する場合は、必要に応じて内容を修正してください。</p>						

<p>31</p>	<p>学習ワーク</p> <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 障害に関する知識を得る ● 自己理解・他者理解を深める ● コミュニケーション能力の向上 ● 協調性の獲得 ● 楽屋ルールの理解 ● 注意・集中力、理解・判断力、問題解決能力の内上  <p>① 注意・集中 例) 白米計算・楽屋取し・聞き取りクイズ スリートゲーム・楽屋のハマカ</p> <p>② 情報処理 例) 転写ゲーム・紙しりとり・イヤホンクイズ 楽屋の上昇戦じよう・楽屋は正広</p> <p>③ コミュニケーション (協調性) 例) 他者紹介・楽屋伝達ゲーム・楽屋伝達 無人船ゲーム・牛耳草・ストーリー書ハ ジエスワキゲーム・楽屋</p> <p>④ コミュニケーション (高橋) 例) 楽屋取り・楽屋取り・楽屋取り 楽屋を下ろし・楽屋取りゲーム</p> <p>⑤ 記憶 例) 楽屋しりとり・メモリー・楽屋伝達クイズ メモ取り神経衰弱・楽屋オリンピック</p> <p>⑥ 実行機能 例) 楽屋シミュレーション・楽屋ゲーム 楽屋クイズ・ルート検索</p> <p>⑦ 新書理解 例) 楽屋伝達楽屋(ワークタイムカッション) パリアフリーワーク</p>	<p>特定の生活訓練サービスの取組について紹介する場合は、必要に応じて内容を修正してください。</p>															
<p>32</p>	<p>メモ練習</p> <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 聞いたことを正しくメモする ● 又かしたことを正しく理解し活用する <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>目標</th> <th>内容(時間)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【事前準備】</td> <td>● 聴覚的覚醒への注意保持 ● メモをえる</td> <td>自己紹介・相談文・ 楽屋伝達などの理解、 楽屋</td> </tr> <tr> <td>【楽屋伝達】</td> <td>● 楽屋(4W)を覚える ● メモを覚える ● 必要な楽屋を覚える</td> <td>楽屋伝達・楽屋 レシド・楽屋伝達 の楽屋・楽屋 楽屋ゲーム</td> </tr> <tr> <td>【楽屋理解】</td> <td>● 楽屋(5W1H)を覚える ● 楽屋を覚える ● 正しくわかりやすく書く</td> <td>楽屋と楽屋の 楽屋・楽屋・5 W1H</td> </tr> <tr> <td>【楽屋伝達・修正】</td> <td>● 楽屋を覚える ● 正しくわかりやすく書く ● 楽屋に正しく楽屋</td> <td>楽屋メモの楽屋取り、 楽屋伝達 15分楽屋</td> </tr> </tbody> </table> 	項目	目標	内容(時間)	【事前準備】	● 聴覚的覚醒への注意保持 ● メモをえる	自己紹介・相談文・ 楽屋伝達などの理解、 楽屋	【楽屋伝達】	● 楽屋(4W)を覚える ● メモを覚える ● 必要な楽屋を覚える	楽屋伝達・楽屋 レシド・楽屋伝達 の楽屋・楽屋 楽屋ゲーム	【楽屋理解】	● 楽屋(5W1H)を覚える ● 楽屋を覚える ● 正しくわかりやすく書く	楽屋と楽屋の 楽屋・楽屋・5 W1H	【楽屋伝達・修正】	● 楽屋を覚える ● 正しくわかりやすく書く ● 楽屋に正しく楽屋	楽屋メモの楽屋取り、 楽屋伝達 15分楽屋	<p>特定の生活訓練サービスの取組について紹介する場合は、必要に応じて内容を修正してください。</p>
項目	目標	内容(時間)															
【事前準備】	● 聴覚的覚醒への注意保持 ● メモをえる	自己紹介・相談文・ 楽屋伝達などの理解、 楽屋															
【楽屋伝達】	● 楽屋(4W)を覚える ● メモを覚える ● 必要な楽屋を覚える	楽屋伝達・楽屋 レシド・楽屋伝達 の楽屋・楽屋 楽屋ゲーム															
【楽屋理解】	● 楽屋(5W1H)を覚える ● 楽屋を覚える ● 正しくわかりやすく書く	楽屋と楽屋の 楽屋・楽屋・5 W1H															
【楽屋伝達・修正】	● 楽屋を覚える ● 正しくわかりやすく書く ● 楽屋に正しく楽屋	楽屋メモの楽屋取り、 楽屋伝達 15分楽屋															
<p>33</p>	<p>作業手順訓練</p> <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 手順把握方法の検討 ● 手順把握手段の活用による正確な作業実行(実物、写真、動画、図解による説明、手順書、チェックリストなど)  <p>① 紙素材 ● 折り、巻づくり ● 箱・ジ・作り ● 折り紙 ● 包封等</p> <p>② 紐素材 ● マクラメ ● 折りひも等</p> <p>③ 組み立て ● フロック ● メイキング等</p>	<p>特定の生活訓練サービスの取組について紹介する場合は、必要に応じて内容を修正してください。</p>															
<p>34</p>	<p>グループワーク</p> <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 楽しみ、ストレス発散や達成感の充足 ● 社会生活に必要な知識の習得 <ul style="list-style-type: none"> ● レクリエーション(軽スポーツ・創作) ● 収穫祭 ● 季節行事 ● 外出 ● 教養 	<p>特定の生活訓練サービスの取組について紹介する場合は、必要に応じて内容を修正してください。</p>															
<p>35</p>	<p>家族教室(家族心理教育プログラム)</p> <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 障害や制度、サービスについての理解を深める ● 家族間上の交流や支え合いを促す ● 家族のニーズを探り、訓練や支援に活かす <p>① 講義 ● 症状と対応方法 ● 社会資源 ● 支援事例 ● 家族による講義 等</p> <p>② 訓練見学 ③ 意見交換会</p> <p>※対象者： ● 福祉者(利用者)の配偶者 ● 若年期発達障害者の両親 ● 20~30代利用者のきょうだい等</p> 	<p>特定の生活訓練サービスの取組について紹介する場合は、必要に応じて内容を修正してください。</p>															

36



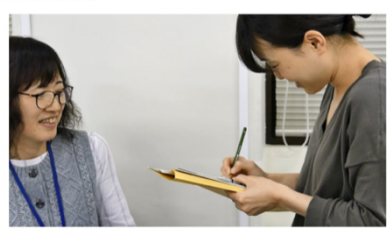



特定の生活訓練サービスの取組について紹介する場合は、必要に応じて内容を修正してください。

【講義 08】生活訓練

自立訓練（生活訓練）における支援の取組

科目	テキスト	時間
地域におけるリハビリテーション；復職・就労移行支援	PowerPoint スライド/mp4 動画	40 分
研修のねらい		
1. 基本的な就労支援施策を理解する。 2. 高次脳機能障害者への就労支援のプロセスを理解する。		
研修内容		
1. 就労支援施策 ① 発症・受傷から復職・新規就労までの流れ ② 障害者総合支援法に基づく就労系サービス ③ 障害者雇用施策に基づくサービス 2. 就労移行支援における取り組み ① 就労支援のプロセス ② 職業相談 ③ 職業評価 ④ 職業準備訓練 ⑤ 復職・新規就労支援 3. 高次脳機能障害者の就労支援のポイント ① 高次脳機能障害者の課題と就労支援のポイント ② 自己理解の重要性と困難さ ③ 社会適応モデル		
番号	スライド	注意事項
3		地域によって社会資源が異なる場合もあるかもしれません。その際は、主催者で修正してください。

<p>12</p>	<p>職業評価</p> <p>検査バッテリーによる評価 検査による客観的な評価で能力の傾向を理解する</p>  <p>一般職業適性検査 (GATB) 昇進版ワークサンプル (MWS) 新版職業レディネステスト</p> <p>訓練場面での評価 訓練を通じて課題・問題点を理解する</p> <p>訓練目標を設定</p>	<p>演者が実際に行っている、または、地域でよく見聞きしている評価バッテリーがあれば、主催者で修正してください。</p>									
<p>14</p>	<p>職業準備訓練の内容</p> <table border="1" data-bbox="343 616 790 840"> <thead> <tr> <th></th> <th>事務系</th> <th>作業系</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>模擬職場</td> <td>文書作成 (Word)、データ入力・表作成・グラフ作成 (Excel)、情報検索、名刺作成、スキャニング (書類のPDF化)、タックシール作成、出席予定表作成、勤怠管理、コピー、ファイリング など</td> <td>各種組立、分解作業、銅材測定、仕分作業、ピッキング、運搬、印刷、製本、発送作業 など</td> </tr> <tr> <td>研修</td> <td colspan="2"> ※単独の作業課題・グループ作業、状況に応じた訓練を行っています ※職場の協力を経て、復職・新規就労先の業務を想定した内容を行う場合もあります ・職員による講義とグループワーク (高次脳機能障害、障害者雇用など) ・外部講師による講義 (履歴書作成、面接対策講座など) </td> </tr> </tbody> </table>		事務系	作業系	模擬職場	文書作成 (Word)、データ入力・表作成・グラフ作成 (Excel)、情報検索、名刺作成、スキャニング (書類のPDF化)、タックシール作成、出席予定表作成、勤怠管理、コピー、ファイリング など	各種組立、分解作業、銅材測定、仕分作業、ピッキング、運搬、印刷、製本、発送作業 など	研修	※単独の作業課題・グループ作業、状況に応じた訓練を行っています ※職場の協力を経て、復職・新規就労先の業務を想定した内容を行う場合もあります ・職員による講義とグループワーク (高次脳機能障害、障害者雇用など) ・外部講師による講義 (履歴書作成、面接対策講座など)		<p>地域の施設で行っている訓練課題があれば、主催者で修正してください。</p>
	事務系	作業系									
模擬職場	文書作成 (Word)、データ入力・表作成・グラフ作成 (Excel)、情報検索、名刺作成、スキャニング (書類のPDF化)、タックシール作成、出席予定表作成、勤怠管理、コピー、ファイリング など	各種組立、分解作業、銅材測定、仕分作業、ピッキング、運搬、印刷、製本、発送作業 など									
研修	※単独の作業課題・グループ作業、状況に応じた訓練を行っています ※職場の協力を経て、復職・新規就労先の業務を想定した内容を行う場合もあります ・職員による講義とグループワーク (高次脳機能障害、障害者雇用など) ・外部講師による講義 (履歴書作成、面接対策講座など)										
<p>15</p>	<p>訓練日報・チェック表・進捗管理表</p>  <p>※「O」評価と「X」評価を振り分けることにより、自分を知る</p> <p>※実際に指示されたことと実際にこなした作業を記載する</p>	<p>地域の施設で行っている日報やメモリーノートがあれば、主催者で修正してください。</p>									
<p>17</p>	<p>【工夫①】メモ取り</p> 	<p>演者の実際の施設での取り組みがあれば、主催者で修正してください。</p>									
<p>18</p>	<p>【工夫②】手順書</p> 	<p>演者の実際の施設での取り組みがあれば、主催者で修正してください。</p>									

<p>19</p>	<p>【工夫③】 表示プレート・見本を活用</p>  <p>目前の作業に必要なカードのみ使う 注意の範囲が限定され、判断する余地がなく迷わない</p> <p>指示カードと実物を一緒にすることで仕事をスムーズに</p> <p>見本は目の前に置く</p>	<p>演者の実際の施設での取り組みがあれば、主催者で修正してください。</p>
<p>20</p>	<p>【工夫④】 道具・物の管理</p>  <p>一つにまとめる</p> <p>ポイントは何も同じ」ということ</p> <p>精査する</p> <p>どこに置いて、かわからなくなることが多い場合は、各自1つ専用ボックスを割り当て、<u>色紙</u>に貼って保管する。</p> <p>自分が出たが、やっていないかわからなくなってしまう場合は、常に色紙等を貼って目印をしておく</p>	<p>演者の実際の施設での取り組みがあれば、主催者で修正してください。</p>
<p>21</p>	<p>【工夫⑤】 治具を使う</p>  <p>面状定規 スライド定規 輪周固定定規 マグネット定規</p> <p>注意する範囲を限定し、ミスを減らす</p>	<p>演者の実際の施設での取り組みがあれば、主催者で修正してください。</p>

【講義 09】 生活と支援の実際

就労継続支援 B 型事業所の例から

科目	テキスト	時間
地域におけるリハビリテーション；生活と支援の実際	PowerPoint スライド/mp4 動画	40 分
研修のねらい		
生活支援の場における支援のプロセスと支援方法、課題について理解する。		
研修内容		
作業時における高次脳機能障害者の問題 受け入れにあたってのアセスメント 環境調整 支援の実際 作業を教える技術 支援を通して目指すこと		
番号	スライド	注意事項
		なし

【演習 01】 障害特性の理解

診断・評価体験

科目	テキスト	時間
診断・評価体験	PowerPoint スライド/mp4 動画	90 分
研修のねらい		
高次脳機能障害の診断に用いられる評価を体験し理解する		
研修内容		
下記検査を体験し、検査上の異常について理解する 順唱・3単語再生・セブンシリーズ・線分二等分テスト・2輪の花の絵模写・立方体透過図の模写		
番号	スライド	注意事項
		なし

【演習 02】 障害特性に応じた支援

相談支援 事例を通じたアセスメント A

科目	テキスト	時間
退院時支援の実際 情報収集とアセスメント	PowerPoint スライド/mp4 動画	90 分
研修のねらい		
具体的な事例を通して、高次脳機能障害支援における情報収集・アセスメントの要点を理解する。		
研修内容		
脳卒中・脳外傷（通勤中の自動車事故）の事例を通して、「診断名と症状や受傷発症状況」「既往歴と医療機関」「家族と関係者」「生活状況と生活史」「制度利用」等の情報収集・アセスメントの要点を理解する。		
番号	スライド	注意事項
		なし

【演習 03】生活訓練の実際

科目	テキスト	時間
生活訓練の実際	PowerPoint スライド/mp4 動画	90 分
研修のねらい		
具体的な事例を通して、生活訓練における支援の実際を理解する。		
研修内容		
生活課題のある就労を目指す事例を通して、生活訓練における「目標設定」「計画立案」「訓練項目及び内容」「調整項目及び内容」「他機関との連携」等の要点を理解する。		
番号	スライド	注意事項
1	<div style="text-align: center;"> <small>演習</small> <u>生活訓練の実際</u> </div>	特定の生活訓練サービスの事例を紹介する場合は、生活課題に対する支援や、他機関との連携を必要とする事例で演習を行ってください
		スライド7枚目（解説用の実際の支援内容）は、グループ検討に影響がないよう、解説時まで極力見ないようにしていただってください
6		発表時間は 15～20 分程度を想定しています

7

支援の実例 1

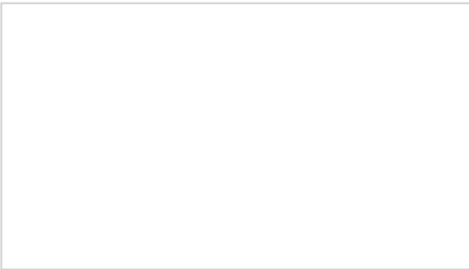
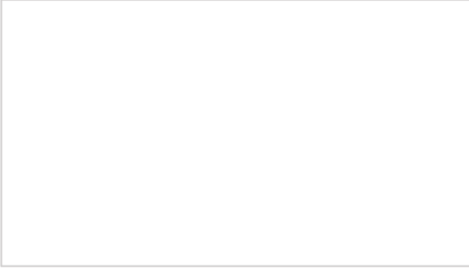
時 期	① 1~4か月	② 5~8か月	③ 9~12か月
目 標	管理母体の移行 母体生活への移行	グループホームの利用 認知移行支援への移行	認知移行支援の利用 生活の安定
主な 課題	● 距離問題、試し行動 →退職	● 障害年金・児童福祉の手話・受給 ● グループホーム見学・体験・利用 開始	● 認知移行支援指導学・体験 担当者派遣
支援 内容	● 日課表・メモリーノート の活用（1日）	● 乗車の手紙の活用 （1週間）	● 日課表・外出予定表・市販 の手紙の活用
健康 管理	● 薬のワット（1週間）と アラームの活用	● 薬の飲み忘れを控らす ● 自分で薬をセットする	● 薬の飲み忘れを控らす ● 電気を減らす
金融 管理	● 支出の把握 ● ATMの活用	● レシート交換 ● 乗車管理表の活用	● 乗車管理表の活用 ● 不正金を控らす
家事 管理	● 掃除、洗濯の方法の習得	● 定期診察通院・洗濯 ● チェックリストの活用	● チェックリストの活用 ● 夕イヤーの活用
移動	● 徒歩移動・電車の利用に 慣れる	● 乗車アプリの活用 ● 通所観察（年次通院）	● 通所観察（認知移行支援） ● 余暇活動における移動
作業	● 作業性の向上 ● 苦手なことに対づく	● できる作業の拡大 ● 報告や質問ができる	● 乗車管理表の活用 ● 苦手なことへの克服

このスライド（解説用の実際の支援内容）は、グループ検討に影響がないよう、解説時まで極力見ないようにしていただいています

【演習 04】 復職・就労移行支援

グループワーク：事例検討

科目	テキスト	時間				
復職・就労移行支援	PowerPoint スライド/mp4 動画	90 分				
研修のねらい						
医療機関と就労支援機関の立場による違いを知るとともに、基本的な就労支援のプロセスについて理解する。						
研修内容						
脳卒中の復職ケースの事例を通して、「医療機関で必要となるアプローチ・難しいアプローチ」「医療機関と就労支援機関の連携をする上での課題、効果的な情報提供」「就労支援機関で必要となるアプローチ」について理解する。						
番号	スライド	注意事項				
6		演習の進行役が発表内容に関して、ポイントとなる内容について簡単にコメントしてください。				
7	<p>支援のポイント①「入院中」(例)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>【本人へのアプローチ】</th> <th>【連携者へのアプローチ】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ol style="list-style-type: none"> 今後の復職しの説明 <ul style="list-style-type: none"> ・ 移行支援センター、在宅がよいのか、本人・家族へ相談支援・相談支援・経過観察など、今後の見直しを説明する 自己管理のためのアプローチ <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知機能課題（計算と時計）を軸に課題づくりを実施 ・ 認知機能低下状態を把握し、その後の対応 ADL・IADLの対応 <ul style="list-style-type: none"> ・ 職場で自立して生活できるための準備 ⇒このようは初期行動や受入の必要があれば自立でできるか 外出支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 復職を前提とした外出訓練 </td> <td> <ol style="list-style-type: none"> 経過観察の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ 復職準備状況の把握（復職後の確認・調整） ・ 精神状態を把握し、必要に応じて準備・調整 ・ 復職後すぐに転倒できるように準備・調整 職能回復の支援（認知内面・認知外・実入内） <ul style="list-style-type: none"> ・ 本人・家族・関係者（医師）との連携 ・ 本人・家族・関係者（医師）との連携 ・ 本人・家族・関係者（医師）との連携 認知支援機関への連携支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知支援センター（認知内）・療養施設・生活支援センター・就労移行支援センター・市区町村の認知支援センター・相談支援センターとの連携 職能への回復アプローチ <ul style="list-style-type: none"> ・ 職能回復の支援体制や関係者のフォローが必要な事など説明 </td> </tr> </tbody> </table> <p>医療機関では難しいこととして、「仕事に強い職業での訓練（制業・内勤）」「職場に出向くための支援」「就労後のフォロー」などが考えられる。</p>	【本人へのアプローチ】	【連携者へのアプローチ】	<ol style="list-style-type: none"> 今後の復職しの説明 <ul style="list-style-type: none"> ・ 移行支援センター、在宅がよいのか、本人・家族へ相談支援・相談支援・経過観察など、今後の見直しを説明する 自己管理のためのアプローチ <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知機能課題（計算と時計）を軸に課題づくりを実施 ・ 認知機能低下状態を把握し、その後の対応 ADL・IADLの対応 <ul style="list-style-type: none"> ・ 職場で自立して生活できるための準備 ⇒このようは初期行動や受入の必要があれば自立でできるか 外出支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 復職を前提とした外出訓練 	<ol style="list-style-type: none"> 経過観察の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ 復職準備状況の把握（復職後の確認・調整） ・ 精神状態を把握し、必要に応じて準備・調整 ・ 復職後すぐに転倒できるように準備・調整 職能回復の支援（認知内面・認知外・実入内） <ul style="list-style-type: none"> ・ 本人・家族・関係者（医師）との連携 ・ 本人・家族・関係者（医師）との連携 ・ 本人・家族・関係者（医師）との連携 認知支援機関への連携支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知支援センター（認知内）・療養施設・生活支援センター・就労移行支援センター・市区町村の認知支援センター・相談支援センターとの連携 職能への回復アプローチ <ul style="list-style-type: none"> ・ 職能回復の支援体制や関係者のフォローが必要な事など説明 	演習でポイントがずれていたたり、発表内容が乏しい場合は、演習の進行役の方がこのスライドを使うか、主催者で準備するかしてポイントをご説明ください。
【本人へのアプローチ】	【連携者へのアプローチ】					
<ol style="list-style-type: none"> 今後の復職しの説明 <ul style="list-style-type: none"> ・ 移行支援センター、在宅がよいのか、本人・家族へ相談支援・相談支援・経過観察など、今後の見直しを説明する 自己管理のためのアプローチ <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知機能課題（計算と時計）を軸に課題づくりを実施 ・ 認知機能低下状態を把握し、その後の対応 ADL・IADLの対応 <ul style="list-style-type: none"> ・ 職場で自立して生活できるための準備 ⇒このようは初期行動や受入の必要があれば自立でできるか 外出支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 復職を前提とした外出訓練 	<ol style="list-style-type: none"> 経過観察の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ 復職準備状況の把握（復職後の確認・調整） ・ 精神状態を把握し、必要に応じて準備・調整 ・ 復職後すぐに転倒できるように準備・調整 職能回復の支援（認知内面・認知外・実入内） <ul style="list-style-type: none"> ・ 本人・家族・関係者（医師）との連携 ・ 本人・家族・関係者（医師）との連携 ・ 本人・家族・関係者（医師）との連携 認知支援機関への連携支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知支援センター（認知内）・療養施設・生活支援センター・就労移行支援センター・市区町村の認知支援センター・相談支援センターとの連携 職能への回復アプローチ <ul style="list-style-type: none"> ・ 職能回復の支援体制や関係者のフォローが必要な事など説明 					

<p>9</p>		<p>演習の進行役が発表内容に関して、ポイントとなる内容について簡単にコメントしてください。</p>
<p>10</p>	<p>支援のポイント②「復職に向けた連携」(例)</p> <p>【医療機関の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療終了後の説明 医療では、「リハビリできる時間・期間」に限りがある。 →復職の課題(復職)の課題がある 2) MSWの抱える課題 人数が少なく、業務が幅広い。加えて、MSWのメンタルケアのこともやらざるを得ないことも多い 3) 社会との連携 一般に医師やリハビリスタッフは、医療終了と一緒に行動・変更する機会が少ない。→アセスメントは現場を知らないため、十分に働けるかどうかのアセスメントが難しい。 <p>【就労支援機関の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域障害者就業センター 高齢者中心に1箇所しかないために、地域別に違いが大きい 2) 障害者就業・生活支援センター 仕事内容は様々で、復職を目指す人が、定数まで応募している。復職支援のノウハウは少ない 3) 障害者(身体障害者) 地方自治体による利用は多くない。市町村によっては、復職に向けた利用が認められない。就職先を探す必要とそうできない事業所の存在が大きい 4) 障害者就業支援 介護分野では1人30~40ケースのところ、100ケース程度という現場もあって、3割程度は定数で一杯な状況 <p>【情報共有で気をつけるポイント】</p> <p>「専門性があるから分かる場合」と「専門性ゆえ、あえてはなす・ひかつかうしない場合」がある。医療従事者は医療側のアセスメントをするものの経験が少なく、復職のアセスメントが十分にできないことが多い。一方、就労支援機関は就業状況が分かるが、一方で、企業で働いている一般的な労働者や生活保護受給者など、就業機会、なるべく就業機会の創出によって、就業促進を行い、就業支援機関は、医療従事者が現場を理解していないことを理解し、実働現場の労働者や企業と、共有していくことが重要である。</p>	<p>演習でポイントがずれていたたり、発表内容が乏しい場合は、演習の進行役の方がこのスライドを使うか、主催者で準備するかしてポイントをご説明ください。</p>
<p>13</p>		<p>演習の進行役が発表内容に関して、ポイントとなる内容について簡単にコメントしてください。</p>
<p>14</p>	<p>支援のポイント③「就労支援機関」(例)</p> <p>【本人へのアプローチ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 一月の行動計画までの支援方法とかかる時間の算定 「睡眠・起床→お風呂→1日→食事→洗濯・掃除→作業→記録→休憩→お風呂→1日→睡眠へ戻る」 2) 自己理解の必要性 →以前の業務は記憶なくしてからの認識 →現実のギャップは大きいので、自己評価と他者評価の両方を行う 3) 補償行動の獲得 ・スキル ・税金・資格・知識 4) 可能作業と作業量(どれ)にかかる時間の算定 「習得できる工程」「注意できる点」「物や道具の管理」 5) スケジュール管理・情報共有の方法の整理 職場・家族や他の情報共有できるメモリーノートの使用 <p>【職場へのアプローチ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 職場訪問 ・本人のアセスメントができた段階で職場訪問 ・職場までのプランの提示 ・復職時のイメージ共有 2) 復職の理解を深める 「障害者(身体)が、復職に向けた基本的な考え方(障害者雇用・復職のメリット・社会的配慮・障害者就業支援等就業促進の案内など)」の理解を促す(文章) 3) 業務内容の把握・調整 業務～復職まであらゆる業務の中で、実際にどう・体験をし、ある程度分業があり、取り返し行える業務を調整。 4) 職場環境の改善 手配書の準備、近隣の店舗等の設定など 5) 指導員指名へのポイント 障害者(身体)の復職、指導方法の伝達(ジョブ・ロードブック) 6) その他、困りごとへの相談 	<p>演習でポイントがずれていたたり、発表内容が乏しい場合は、演習の進行役の方がこのスライドを使うか、主催者で準備するかしてポイントをご説明ください。</p>

